

【伴走支援のサマリ】

株式会社 さかうえ：テレワーク

産業分類	社員数*1
A.農林水産業	70

①ビジョン（背景と目的）

- ✓ 各部門へのヒヤリングの結果、9つの課題と5つの対応方針案を検討することに至った。
- ✓ 伴走支援では課題と対応方針案を自力で検討できる経営企画部門の強化とリモートワーク環境の整備を行うこととした

②取組（ソリューションの内容）

- ✓ さかうえ社では、直近、新営業所を建設する状態であったが、新営業所と本社とで頻繁に移動が発生する事を懸念していた。
- ✓ そのため、テレワーク環境を整えることで、本社との行き来に加え、各農作現場への移動時間の短縮を検討することとした。

③取組（課題や難所と、その対応）

- ✓ 社員教育は、ビジネススキルの一つである、ロジカルシンキングを行うこととした。
- ✓ 現場社員やパート社員は、ロジカルシンキングに触れる機会が少ない状態であったため、研修や演習を踏まえながら、講義を行うこととした。

④得られた成果

【定量的な成果】

- ✓ 事務所と現場の往復時間：900分/月 → 150分/月
- ✓ 事務所と生産現場の往復時間：36,400分/月 → 13,000分/月
- ✓ 業務報告、入力時間混雑：780分/月 → 390分/月
- ✓ オンライン会議の件数：23件 → 43件

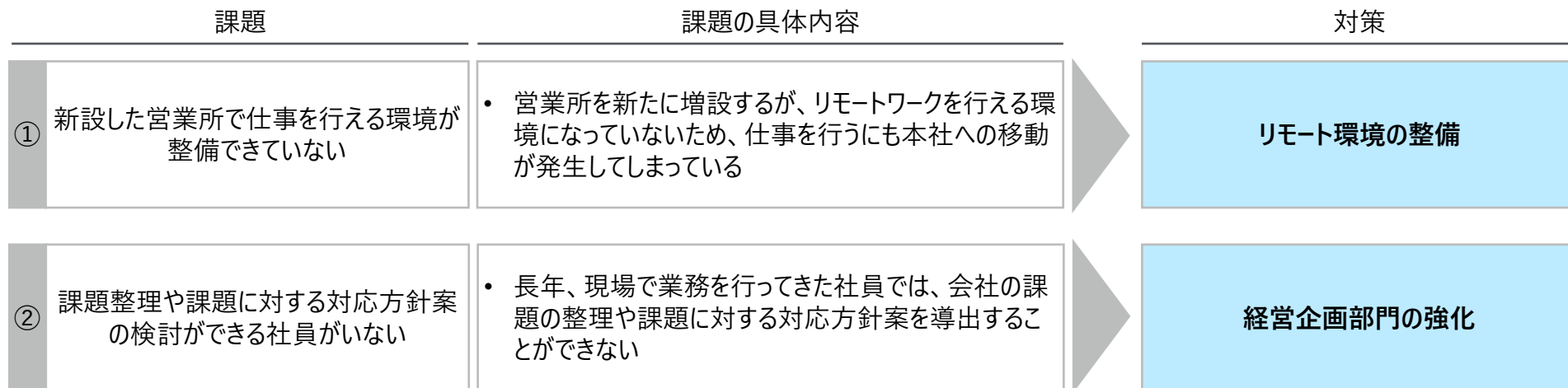
【定性的な成果】

- ✓ 家庭の事情等で出勤不可能な場合に、事務業務を在宅で行わせるような体制の構築した

*1：2021/3月時点 モデル候補企業の応募受付時情報より

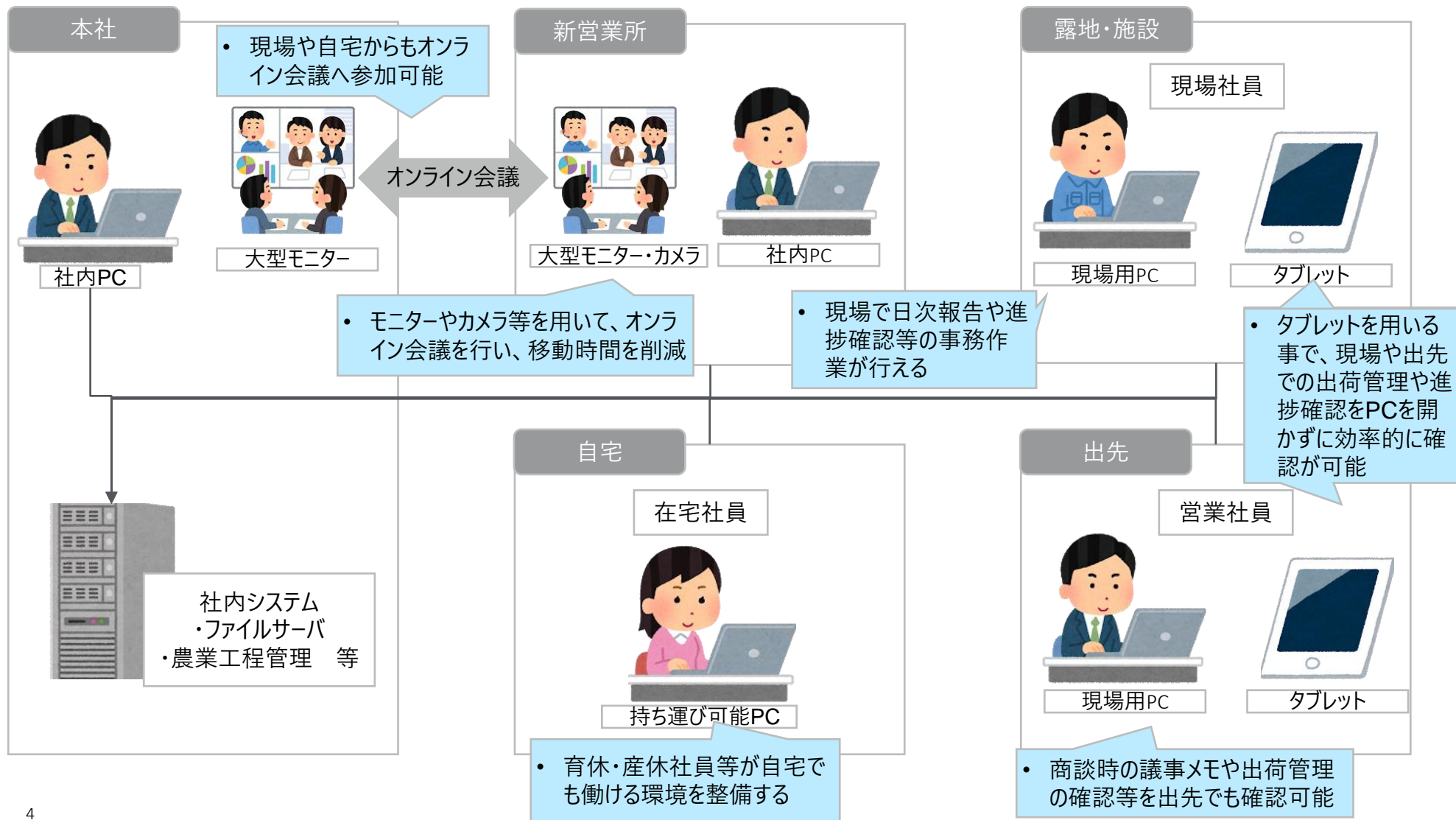
本事業では、営業所の新設に伴う、リモートワーク環境の整備と、課題と対応方針案を自力で検討できる経営企画部門の強化を対象とした

本事業のテーマ



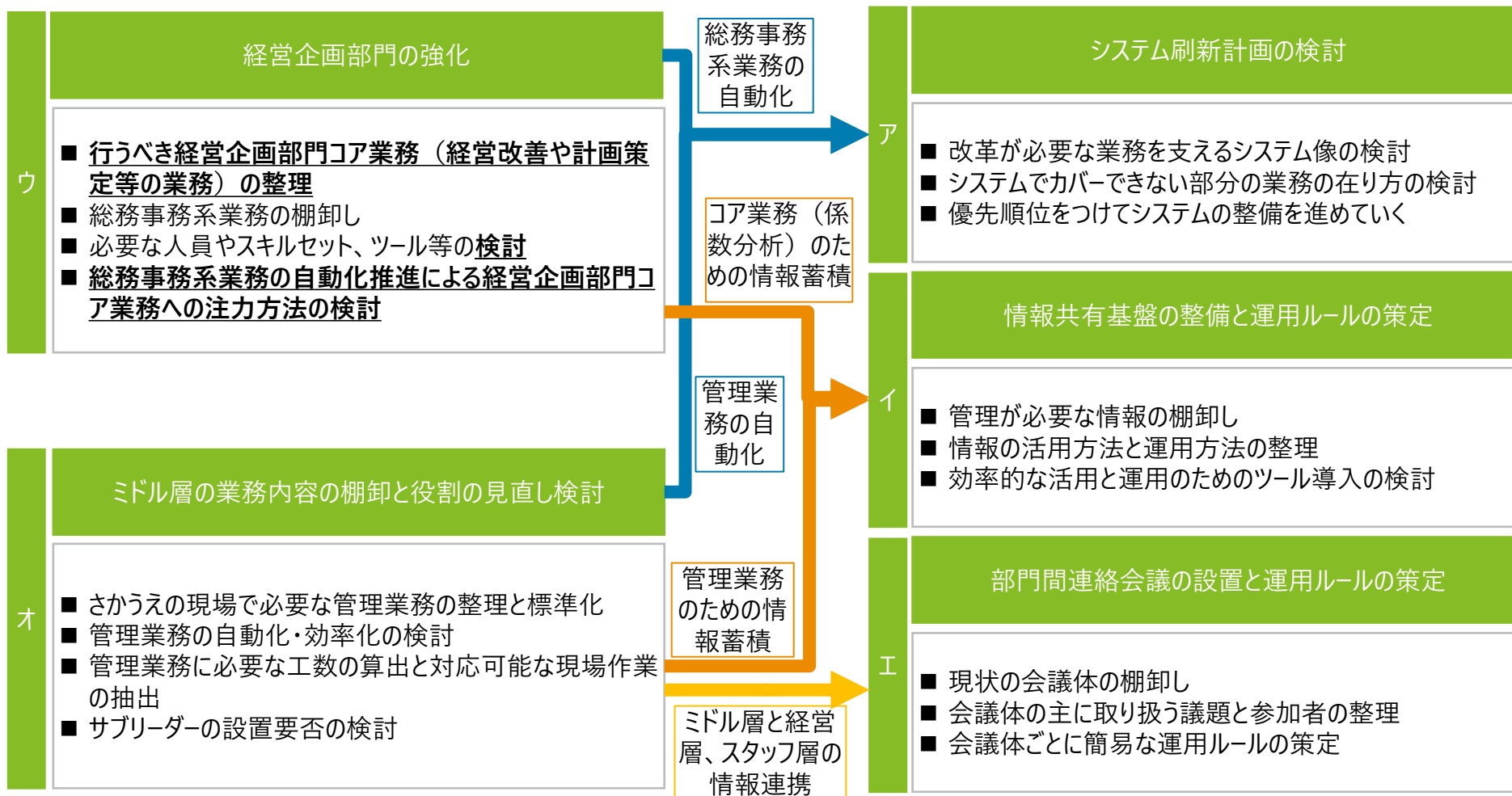
直近で、新営業所を設置することから、リモートワークができる環境を整備することを目指した

リモートワークの業務イメージ



課題分析の結果、対応方針の順序を検討した

対応順序と各テーマにおいて必要な作業（案）



ロジカルシンキング講座を行い、論理的思考を理解することで、課題と対応方針案を自力で検討できるようにした

ロジカルシンキング講座の目的とゴール

目的

- ビジネスに不可欠な論理的思考の基本を理解し、身につける
- イシューの特定から、解決策を考え、優先順位の高い解決策を特定できるきっかけを提供する
- 分析に有用なフレームワークの知識を身につける（補足）

ゴール

- 論理の基本であるMECE、ピラミッド構造を理解している
- イシューツリーを実務において活用できる
- 基本的なフレームワークを適宜活用できる（補足）

今回の取組によって期待される費用対効果は、以下の通りである

申請時点での目標設定と効果測定結果

目標	実績	内容	現状
<input checked="" type="checkbox"/> 通信機器活用(DX)の成果	<p>Web対応用のモニター設置、通信可能範囲拡大で、オンライン会議の環境が整備できた。これにより研修や商談出張の旅費の削減を可能にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議、商談割合 (前年同時期 23件→49件) ・社員の家庭事情により、出勤不可能な場合の事務業務を在宅で対応できるようノートパソコンを充実させ体制を整備できた。(実績なし) 	<p>オンライン会議ができるような環境を整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議・商談の割合を3割にする ・在宅業務を可能にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・出張や限られた場でのウェブ会議のみ ・在宅勤務者なし
<input checked="" type="checkbox"/> 業務コスト削減の成果	<p>Webカメラ設置により、各部署の業務状況把握が可能になり往復回数を削減、現場に事務所を設置することで、対応業務のための移動時間を大幅に削減できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務所と現場の往復時間： (900分/月→150分/月) <p>生産現場各拠点に通信環境を整備し、事務作業を簡易的に実施できるようにし、事務所との往復回数を減らす。また出退勤管理を直接行えるように体制構築し、さらなる削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務所と生産現場の往復時間： (目標 36,400分/月→13,000分/月) <p>パソコン増台等で入力環境を整備し分散化が可能になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務報告、入力時間混雑： (780分/月→390分/月) 	<p>通信、システム環境の整備により下記業務時間が削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務所と現場の往復時間：150分/月 ・事務所と生産現場の往復時間：13,000分/月 ・業務報告、入力時間混雑：390分/月 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所と現場の往復時間：900分/月 (納品、出荷確認のたびに往復) ・事務所と生産現場の往復時間：36,400分/月 ・業務報告、入力時間混雑：780分/月
<input type="checkbox"/> 働きがい向上の成果			